

水よ、ありがとう

山添村立山添中学校 二年

畑中 友里

「ただいま。」
私は家に帰って、いつものように洗面所で手を洗った。(あれ、いつもの水の色とちがう)と、不思議に思った。しかし、この水は水道から出ているのだから汚れているはずがない。私は目の錯覚だと思った。

「うわー、何だこれ。」
お風呂場から妹の驚いた声が響き渡ってきた。すぐに

「どうしたん。」
そうやって私はとんで行った。するとお風呂に入っている水が、まるでコーヒーのような茶色い色に濁ってしまったのだ。考えてみると私が手を洗った水も、このような茶色い水だった。なぜ、清い水ではなくなってしまったのだろうか。私は母に聞いた。母はこ

う言った。

「浄水場でなんかあつてんで。」
浄水場は汚れている水を消毒してきれいな水に変える場所だ。そこで私は浄水場で異変が起きたら大変なことになってしまおうと気付いたのである。

家中の水道から出る水が濁ってしまおうと飲み水がなくなってしまう。幸い、私の家の井戸水があつたおかげでこの危機は乗りこえることができた。

私たち日本人は蛇口をひねれば無色透明の清らかな水が出ることを当たり前のようについている。しかし、世界中がそうではない。安全な飲料水を得ることのできない人もいるということを忘れてはいけないのだ。

私の家は毎年五月に田植えを行う。祖母は

この時期になると天気予報を真剣に見る。

「雨、降ってくれるといいねんけど。」

と、つぶやいた。雨は天の恵みであり、苗を成長させてくれる。そして米ができる。水がないと米ができない。水があるのだからこそ、私は米を食べて生きることができなのだ。

もし、この世に「水」という物質が存在していなければ、どうなっていただろう。生物が誕生していなかった。だから今、ここにいる私は存在しないことになる。生物の源である「水」はこれからも、その先ずっと存在していないといけないのだ。

水は海から蒸発して雲となり、雨や雪になって地上に降る。そして川となり、再び海へ戻る。このように水は、繰り返し利用することができるとができる。

私の家では少しの水でも大切にしている。例えばお風呂の湯を洗濯に使ったり、米のとぎ汁を植物にあげたりしている。みんながこうすること、水を守っていくことができるのだ。今、存在している水を汚さないように私たちには何ができるのか。水を大切に使うていくにはどうすればいいのか。このような

ことをしつかりと考えていける人が多ければ存在している水も消えはしないだろう。

現在にいたるまで、生物の命を支えてくれた水に感謝しなければならぬ。暑い場所でも暮らす動物も、水を飲んで生きている。私たちが人間も運動した後、水を飲んで生きている。水がないと地球上の生物は生きていけない。

「このような貴重である「水」に今、私はありがたい」と言いたい。